

「先端的リング型光源計画特別委員会」の活動記録

- 先端的リング型光源計画特別委員会：全5回開催
開催日・出席者リスト及び第一回議事録は下記を参照。
- 関連ワークショップの開催：
第3回次世代光源ワークショップー先端的リング型光源が拓くサイエンスー

「先端的リング型光源計画特別委員会」の全5回開催日及び出席者リスト

- 第1回 2005年10月28日

場所	八重洲ダイビル 第2会議室
出席者	足立伸一 (KEK)、雨宮慶幸 (東大)、河田洋 (KEK)、熊谷教考 (JASRI)、高田昌樹 (JASRI)、田中均 (JASRI)、中川敦史 (阪大)、羽島良一 (JAEA)、村上洋一 (東北大)、若槻壮市 (KEK)
オブザーバー	尾嶋正治 (東大)、下村理 (会長)、澤博 (渉外幹事)

- 第2回 2006年1月8日

場所	名古屋大学 IB 電子情報館会議室
出席者	足立伸一 (KEK)、雨宮健太 (KEK)、雨宮慶幸 (東大)、石川哲也 (理研)、籠島 靖 (兵庫県立大学)、神谷幸秀 (KEK)、河田 洋 (KEK)、木下豊彦 (JASRI)、熊谷教考 (JASRI)、小杉信博 (分子研)、古宮聰 (JASRI)、坂中章悟 (KEK)、島田賢也 (広大)、関山明 (阪大)、高田昌樹 (JASRI)、田中均 (JASRI)、中川敦史 (阪大)、西島和三 (持田製薬)、羽島良一 (JAEA)、村上洋一 (東北大) 若槻壮市 (KEK)
オブザーバー	下村理 (会長)、澤博 (渉外幹事)、木村真一 (行事幹事)

- 第3回 2006年4月10日

場所	理化学研究所 東京連絡事務所 会議室
出席者	朝倉清高 (北大)、足立伸一 (KEK)、雨宮健太 (KEK-PF)、雨宮慶幸 (東大)、石川哲也 (理研)、籠島靖 (兵庫県立大学)、神谷幸秀 (KEK)、河田洋 (KEK)、木下豊彦 (JASRI)、熊谷教考

	(JASRI)、小杉信博 (分子研)、古宮聰 (JASRI)、坂中章悟 (KEK)、島田賢也 (広大)、関山明 (阪大)、高田昌樹 (JASRI)、田中均 (JASRI)、中川敦史 (阪大)、西島和三 (持田製薬)、羽島良一 (JAEA)、村上洋一 (東北大)、若槻壮市 (KEK)
オブザーバー	下村理 (会長)、澤博 (渉外幹事)、木村真一 (行事幹事)

■ 第4回 2006年6月12日

場所	理化学研究所 東京連絡事務所 会議室
出席者	朝倉清高 (北大)、雨宮健太 (KEK)、雨宮慶幸 (東大)、河田 洋 (KEK)、木下豊彦 (JASRI)、熊谷教考 (JASRI)、小杉信博 (分子研)、坂中章悟 (KEK)、島田賢也 (広大)、関山明 (阪大)、高田昌樹 (JASRI)、中川敦史 (阪大)、西島和三 (持田製薬)、羽島良一 (JAEA)、若槻壮市 (KEK)
オブザーバー	下村 理 (会長)

■ 第5回 2006年8月8日

場所	自然科学研究機構 岡崎コンファレンスセンター 小会議室
出席者	足立伸一 (KEK)、雨宮健太 (KEK-PF)、雨宮慶幸 (東大)、石川哲也 (理研)、籠島靖 (兵庫県立大学)、河田洋 (KEK)、木下豊彦 (JASRI)、熊谷教考 (JASRI)、小杉信博 (分子研)、坂中章悟 (KEK)、島田賢也 (広大)、関山 明 (阪大)、高田昌樹 (JASRI)、中川敦史 (阪大)、西島和三 (持田製薬)、村上洋一 (東北大)
オブザーバー	下村理 (会長)、澤博 (渉外幹事)、木村真一 (行事幹事)

第一回「先端的リング型光源計画特別委員会」議事録

日時：平成 17 年 10 月 28 日(金) 13:30～16:30

場所：八重洲ダイビル 第 2 会議室

出席者：雨宮慶幸（東大、委員長）、足立伸一（KEK）、河田洋（KEK）、熊谷教考（JASRI）、高田昌樹（JASRI）、田中均（JASRI）、中川敦史（阪大）、羽島良一（原研）、村上洋一（東北大）、若槻壮市（KEK）

オブザーバー：尾嶋正治（東大）、下村理（会長）、澤博（渉外幹事）

1. 特別委員会の設置の経緯・ミッションについて

設立の経緯説明；次世代光源検討特別委員会の提言の中のリング型光源に関する記述を受けて設置した。一年程度の議論に基づく答申を想定。

2. 今後の委員会の進め方に関する議論

- 1) 1年間で3、4回は開催し、2006年12月までに纏め、2007年1月の放射光合同シンポジウムで報告する。
- 2) 10年後の日本の放射光関係の学問的な基盤として、我が国のグランドデザインの議論をすべきである。
- 3) 先端的リング型光源の提案は施設の将来計画ではあるが、放射光コミュニティとしての立場での議論を同時進行させることがミッションである。
- 4) 各施設の状況報告はこの委員会の議論のデータとしては必要であるが、本委員会の報告に含まれるものではない。
- 5) 委員会のミッションとしては、財政当局への要求として具体的な性能・規模などをコミュニティとしての提言することと、各施設の計画に対してそれが学問的に十分高い到達目標を持っているかどうかユーザーとしての立場を明らかにすることの両面がある。

3. 委員会の委員構成に関する議論

分野でバランス、若手、産業界などを考慮して、以下の5人を追加。

光源加速器：坂中章吾（KEK）

光学系若手：雨宮健太（東大）

VUV・SX 若手：関山明（阪大）

産業利用：西島和三（持田製薬）・古宮聡（JASRI）

4. 先端的リング型光源計画の現状の紹介

(太田委員会での発表をベースに紹介)

(1) 物構研・原研の計画 (河田・羽島)

個別の計画であったが一つにまとめた。

(2) SPring-8 の計画 (熊谷)

SPring-8 の多様な高度化の可能性の紹介

(3) 東大の計画 (東大 Outstation 計画) (若槻、尾嶋)

東大リングの計画は既存施設を利用した Outstation 計画に変更された。

VUV・SX と構造生物、構造物性の分野を網羅した形での計画の予定。

5. 上記の紹介に対する質疑応答、および議論

- 施設の高度化とコミュニティの要求とのすり合わせの議論と歩調を合わせて進めていく必要がある。但し、予算的な話とのタイミングとも合わせながら進めなければならない。
- コミュニティの要求と施設の計画とは必ずしも一致する必要はない。
- Science の軸で議論を進める姿勢が必要であり、その議論の方向で施設がどのように応えていくかは施設側の問題。
- 3 種類の話の中で、10 年後を見据えた形で新しい施設を考えるときに、Outstation の定常的な運営と SPring-8 の高度化が終了しているという境界条件で、新しい施設がなぜ必要であることを財政当局に要求するためにはどうしなければいけないか？という議論を行っていく。
- PF の後継機という形では予算はつかない。先端的な要素を入れ込んだリング計画にしなければならない。先端性と謳った光は何であるのかはコミュニティから発信していくべきである。一方、建設が終わったときに産業界や多くのユーザーが利用できるビームラインがないという汎用性からの観点にも考慮すべき。
- 汎用的な利用についての運営は例えばアジア地区での放射光施設での有効利用という考え方もある。

次回は合同シンポジウムに併せての開催を予定。